

ふるさとファイル

展示コーナーだより
第60号
平成26年10月
生涯学習課文化財係



現物の展示期間（図書館休館日は除く）

資料②③⑥⑧
平成26年10月2日(木)～11月16日(日)

資料①④⑤⑦
平成26年11月18日(火)～12月26日(金)

旅の記録

行楽の季節になると旅ごころを誘われ、遠くへ行って、いつもと違う風景を見たくになります。江戸時代中期以降の庶民も、伊勢参り・西国三十三か所巡礼などの寺社参詣や物見遊山のために、さかんに旅をしています。

そのほかにも仕事などさまざまな所用で、居住地から遠く離れた土地に旅をした人々もいました。また明治以降には、多くの人が兵士として海外にまで赴くようになります。

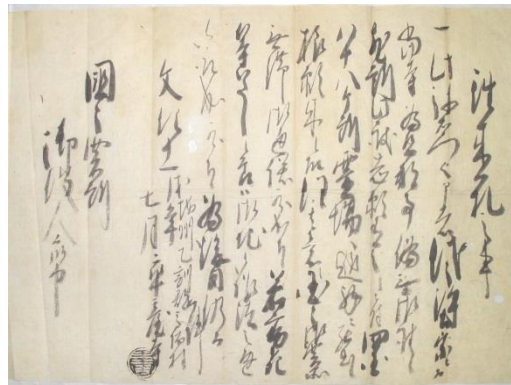
彼らは、旅の途上で、また目的地・任地で、何を見て何を経験したのでしょうか。今回は、彼らが書き残した記録や、長岡の親族・知人に宛てた書簡などから、それをたどります。

寺社参詣の記録

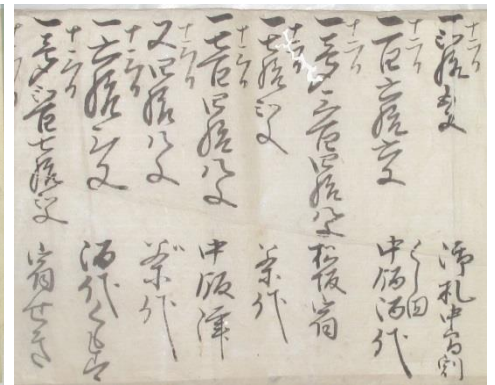
江戸時代にもっとも流行した寺社参詣は、伊勢参りです。伊勢参りは村内で組織した「伊勢講」で資金を積み立て、代表者が順番に参拝するのが一般的でした。多く残された伊勢参りの記録からは、伊勢との往復の経路や、道中で何にどれだけお金を使ったかを知ることができます（資料①）。

西国三十三か所巡礼も人気がありました。友岡村の兵四郎が残した「西国北廻り道中記」には、市域より西の二十二番総持寺（茨木市）から始めて、摂津・播磨から北へ進み丹後の二十八番成相寺（宮津市）へ、近江から美濃の三十三番谷汲山華嚴寺（岐阜県揖斐川町）へと至り、そこから西へ戻る11泊の行程が記されています（資料②）。

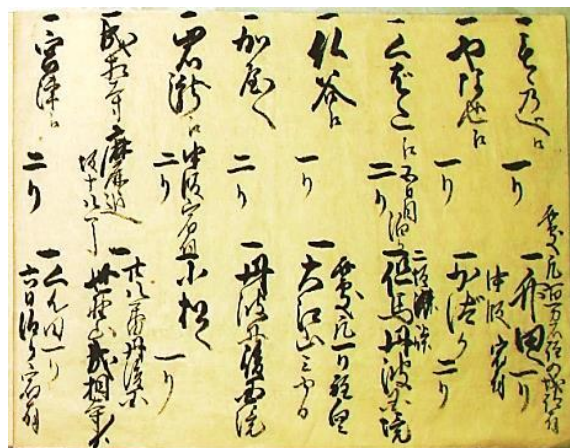
四国八十八か所巡礼を願い出た馬場村の弥右衛門の例のように、往来手形が残ることで、どこに参詣していたかを知ることができます（資料③）。



資料③「往来一札の事」文化11年（1814）
四国八十八か所巡礼を願い出た人の往来手形を檀那寺がしたためています。（個人蔵）



資料①「道中入用帳」享和3年（1803）
下海印寺村の伊勢参りの記録。日付と宿場名、宿代・昼食代・茶代・酒代などが記されています。（個人蔵）



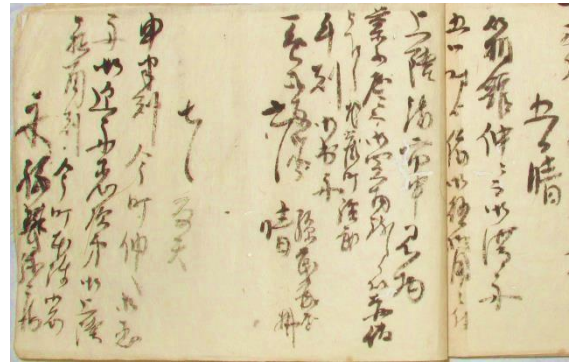
資料②「西国北廻り道中記」安政4年（1857）

但馬の竹田では「天空の城」として有名な竹田城跡にも触れ、「此の処、凡そ百萬石程の城跡有り」と記されています。

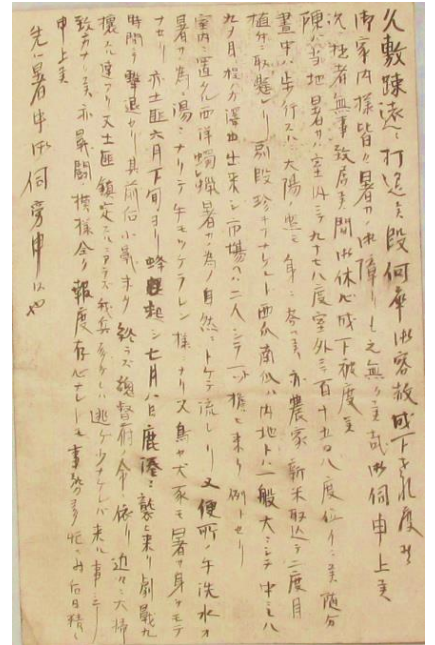
戦時の記録

慶応4年＝明治元年（1868）の戊辰戦争時、井ノ内村の石田帯刀は公家の四条家の家来として新政府軍に属し、京都から北陸へ、北陸から江戸へ、江戸から海路を箱館（函館）経由でまた北陸へと旅しています。帯刀は、その長い旅の途上での出来事や、面会した人々の名前を書き残しています（資料④）。

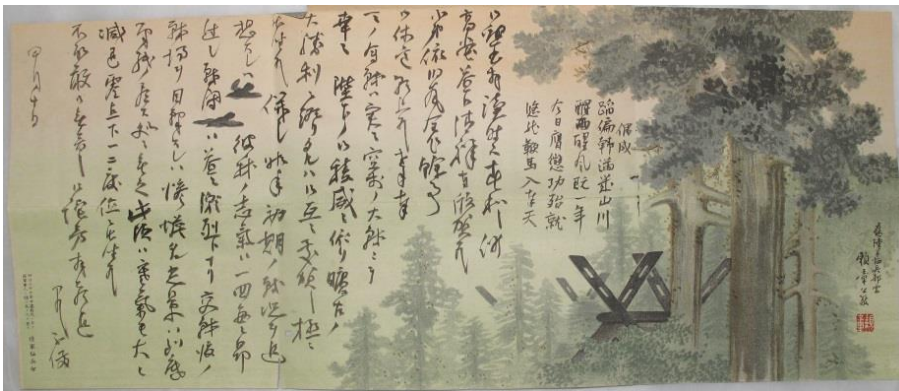
明治以降には、兵士として海外の戦場に向かった人が、外国の珍しい風俗や機密に触れない程度の戦況を、故郷や知人に知らせるようになります。日清戦争後、台湾守備についていた兵士は、現地の暑さや住民の抵抗運動の様子を井ノ内の親類に書き送っています（資料⑤）。また日露戦争に参戦した軍人は、激烈な交戦後の戦場は惨憺たるもので、とうてい筆紙に尽くせない、と今里の知人に知らせています（資料⑥）。



資料④「面会名前日記」慶応4年（1868）（個人蔵）
5月5日に箱館に上陸して市中見物ののち出船し、7日に今町（直江津）に到着したことが分かります。



資料⑤「台湾守備の様子を知らせる葉書」明治29年（1896）（個人蔵）

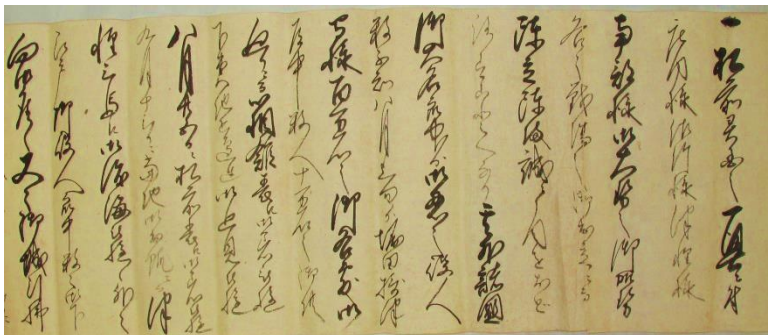


資料⑥「日露戦争の状況を知らせる軍事郵便」明治38年（1905）（個人蔵）

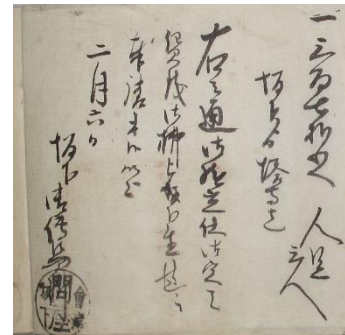
任地での記録

江戸時代後期、蝦夷地でのロシア船に対する警備の様子を知らせた書状には、東北諸藩の警備のものものしさや、その他の藩から御忍びの役人が大勢視察に来ていたことが記されています。一方で、この騒動で翌年の周辺での交易は望めず、松前藩は国替えが決まったため、商人や松前家中、現地住民の苦勞を思いやっています（資料⑦）。

また石田政則（旧名帯刀）は、戊辰戦争後に若松城守となっていた主人四条隆平の用務を帯びて、明治3年（1870）2月5日に会津若松を出立しました。若松から越後・信濃を経て、3月14日に最終目的地の東京に到着しています。この道中の記録には、戊辰戦争直後の宿場の伝馬所（人馬の提供をする所）などの印を見ることができます（資料⑧）。



資料⑦「松前警護の様子を知らせる書状」文化4年（1807）か
差出人の名は書かれていませんが、筆者は商人あるいは役人かもしれません。（個人蔵）



資料⑧「人足賃帳帳」明治3年（1870）
会津坂下（ばんげ）宿の伝馬所が、人足賃の受け取り印を押している部分。（個人蔵）